

# 尾瀬大江湿原の植生保護の取組 (会津森林管理署南会津支署管内)

ニホンジカの食害からニッコウキスゲをはじめとする湿原植生を保護するため、平成26年度から防鹿柵や網の設置を行っている。平成29年度は、既存の防鹿柵に接続し、尾瀬沼手前の国有林界に至るまでの区間において、新たな防鹿柵を設置した。

## 事業内容

- ・大江湿原周囲約3.5kmを防鹿柵(網目15cm×15cm、高さ2.0m、鉄製)で囲む
- ・設置箇所は、湿原周辺の山側林内を通し、湿原環境や景観に配慮した
- ・尾瀬沼との境界は、ビューポイントから見えないよう水面に網を浮かせて設置
- ・網に引っかかり動けなくなったシカは、桧枝岐村に依頼して捕獲する
- ・木道箇所には門扉を設けず、グレーチングと歩道部の柵をH型に設置
- ・破損した柵の補修を実施

## これまでの成果と今後の課題

柵の設置後におけるシカの頭数は大幅に減少し、年間の日撃数は低水準で推移するなど一定の成果が得られている。しかし、防鹿柵未設置の湿原南側からシカの侵入が見られたことから、平成29年度に、「南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」と連携し、ボランティアによる防鹿柵の新設を実施した。

なお、柵による防護だけでなく、くくり罠などによる捕獲も併せて実施し、シカ対策の効果をも高める必要があることから、引き続き、同協議会に対してわなの貸出しを行い、シカの頭数削減に努めている。

## 防鹿柵や沼地への網の設置により、シカの侵入を防止



シカ防護柵新設作業の様子

平成29年7月7日(金)



南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会が新たな取組として、ボランティアによる「シカ柵設置」を実施。

## 平成29年度群馬県尾瀬シカ対策について

## 1 目的

ニホンジカによる尾瀬ヶ原の湿原及び尾瀬沼を含めた尾瀬全体の植生の荒廃（ミズバショウ、ニッコウキスゲなどの食害）や湿原の踏み荒らし等が深刻なものとなったため、「尾瀬からのシカの排除」を最終目標としている「尾瀬国立公園シカ管理方針（2009. 3）」に基づき、県の役割である個体数調整を平成25年度から実施

## 2 事業内容

環境省の調査結果を活用し、尾瀬ヶ原と日光方面とを行き来するシカの移動経路上での捕獲を、県猟友会に委託して実施

なお、捕獲を実施することに伴いシカの移動経路等が変更することが予想されるため、自動撮影カメラを設置してシカの行動を調査し、以降の捕獲に活用する。

3 捕獲箇所 群馬県側の尾瀬国立公園内及びその周辺地域

4 捕獲期間 平成29年4月21日～5月23日（春の捕獲）  
10月14日～（秋、冬の捕獲）

5 実施方法 くくりわな、銃猟

6 捕獲頭数 160頭（オス 70頭 メス 90頭）  
※秋以降については、捕獲実施中



猟友会によるわな設置



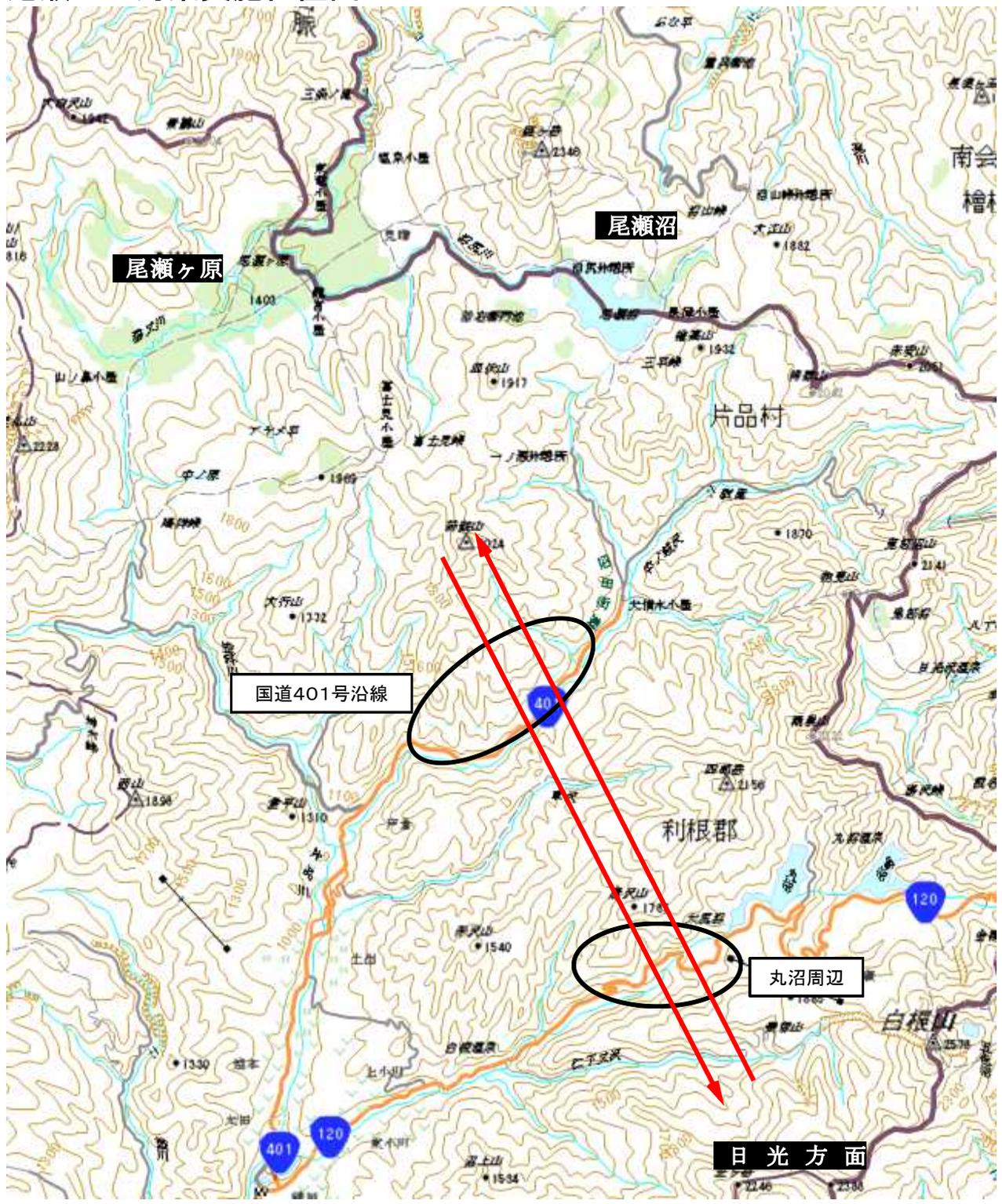
進入防止柵

## ※参考

平成25年度～28年度の捕獲実績

区 分	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	計
捕獲頭数	1 4 8	2 0 5	8 1	1 3 3	5 6 7

# 尾瀬シカ対策実施位置図



## 平成 29 年度尾瀬のニホンジカ対策事業について

福島県自然保護課  
南会津地方振興局

## 1 事業概況

ニホンジカによる尾瀬の湿原植生の攪乱が大きな問題となっていることから、尾瀬の貴重な湿原生態系を保全し、本県の優れた生物多様性の保全を一層推進するため、関係機関・団体による「南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」を平成 25 年 6 月に設立し、地域が一体となって、尾瀬周辺での捕獲や被害防除等の効果的な対策を講じてきた。

また、平成 28 年 9 月から指定管理鳥獣捕獲等事業を開始し、協議会での捕獲は県が同事業で実施することになった。有害捕獲については従来どおり市町村が県の許可のもと行っている。

※南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会

檜枝岐村、南会津町、福島県猟友会南会津支部檜枝岐分会、尾瀬檜枝岐温泉協会、  
尾瀬保護財団、尾瀬山小屋組合、福島県南会津地方振興局

\*オブザーバー：環境省檜枝岐自然保護官事務所、会津森林管理署南会津支署、福島県

## 2 事業実績

## (1) 捕獲等事業の実施

尾瀬国立公園特別保護地区及び周辺地域における被害の軽減を図るとともに、ニホンジカの効率的な捕獲方法の検討及び実証を目的として、以下のとおり捕獲等事業を実施した。

## ア 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施（事業実施主体：福島県）

福島県全体でニホンジカ 700 頭を捕獲する計画を策定。南会津地域の目標捕獲数は 560 頭で、従来、協議会が捕獲してきた実施場所は効果的捕獲促進区域とし目標捕獲数 280 頭。事業の詳細は下記のとおり。

	実施内容
実施期間	平成 29 年 5 月 19 日（金）～平成 30 年 3 月 30 日（金）
実施場所	別紙「区域図」のとおり
実施方法	銃猟（巻狩り、忍び猟、車両を用いたモバイルカリング等） 及びわな猟（くくりわな、囲いわな等）

## イ 有害鳥獣の許可捕獲による捕獲（実施主体：南会津町、檜枝岐村）

尾瀬の植生被害防止などを目的に有害鳥獣捕獲等許可によるニホンジカの捕獲を実施。詳細は下記のとおり。

	実施内容
実施期間	平成 29 年 4 月 25 日（火）～平成 29 年 11 月 14 日（火）
実施場所	南会津町館岩地域内、檜枝岐村全域
実施方法	銃器を用いた捕獲（巻き狩り）、追い込みネット・くくりわなを用いた捕獲

ウ くくりわなの貸し出しについて（事業実施主体：南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会）

その他事業として、尾瀬国立公園の田代山方面での捕獲を実施するため、森林管理署が購入したくくりわな36基を借り入れ、南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会経由で猟友会館岩分会の会員にわなの貸し出しを行った。猟友会館岩分会のわなによる有害捕獲実績は18頭。

(2) 湿原植生の保護（事業実施主体：南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会）

大江湿原周辺において、ニホンジカによるニッコウキスゲの食害を防ぐため、開花・結実シーズンに森林管理署が大江湿原周辺に設置したシカ侵入防止柵の巡視等を実施した。

	実施内容
巡視区域	大江湿原周辺 一周約3.5km
巡視期間	平成29年7月25日（火）～8月22日（火）（計5回）
巡回時間	10時～13時（実施日による変動有）
巡視人員	1回の巡視につき原則として3人1組 延べ人数約15人
巡視方法	1) 柵周辺におけるシカの痕跡調査 食痕やシカ道等の確認 2) シカ等による柵損傷箇所の補修 柵が折り曲げられたり、破られた箇所の補修及び森林管理署への情報提供
実施結果	1) 柵周辺におけるシカの痕跡調査 ・柵沿いに長いシカの足跡があり、くくりわなにシカがかかっていた。 2) 柵補修と柵周辺におけるシカ移動状況 ・数箇所ほど防鹿柵の上部のゆがみや柵の間に隙間があったので、適宜ヒモなどで補強した。 ・数箇所ほどシカや小型獣等による衝突痕と思われるものを確認したが、柵が破られた形跡はなかった。 ・柵が斜めに傾き、支柱が折れて倒れかけているものが見られたが、シカが超えられる程低いものではなかった。 3) 昨年度との比較 ・H28は少雪のため、柵設置前にシカの侵入が見られ食害が見られたが、柵設置後は減少した。H29はそこまでの侵入は見られなかったが、シカ柵を設置していない木道部分や尾瀬沼の浅瀬を通過してシカが侵入しているのではとの情報があり、対策が求められている。



## H29 シカ対策概要表

機関名： 栃木県環境森林部 自然環境課

1	取組名称	指定管理鳥獣捕獲等事業
	対策の種類	捕獲
	実施期間	H28.12.1～H29.1.20
	実施位置	日光市足尾地内
	成果・データ	118頭捕獲
2	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	
3	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	
4	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	
5	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	

## ※備考

- ・昨年度のミーティング以降から今年度末までに実施される対策についてご記入ください。
- ・「対策の種類」は、捕獲、防除、調査、他の項目をご記入ください。
- ・補足説明資料(位置図や写真等を含む)は事前にご送付いただくか、当日ご持参ください。

# 平成28年度指定管理鳥獣捕獲等事業(ニホンジカ)の概要について

平成29年9月20日 自然環境課

## 1 事業内容

効率的な捕獲技術を実証するため、県が実施主体となりニホンジカを捕獲（認定鳥獣捕獲等事業者である（一社）栃木県猟友会への業務委託）

## 2 実施箇所及び時期

実施箇所	実施時期（平成28年12月1日～平成29年2月10日）	
日光市足尾地内 （安蘇沢、久蔵沢、仁田元沢）	モバイルカリング	1月11、12、13、16、17、19、20日（7日間）
	誘引式くくりわな	12月1日～1月20日（50日間）※40基
矢板市長井地内 （県民の森）	誘引式くくりわな	12月13日～2月10日（60日間）※20基

## 3 捕獲状況

獣種	捕獲方法	捕獲数 (頭)	捕獲 努力量	捕獲効率（捕獲数／捕獲努力量）		費用（千円）		
				※地域値	前年値		1頭当り	
ニ ホ ン ジ カ	日光 モバイルカ リング (7日)	30	55人・日	0.545	0.131	0.595	1,798	60
	日光 誘引式くくり わな(50日)	88	2,000基・日	0.044	0.005	0.085	2,638	30
	矢板 誘引式くくり わな(60日)	37	1,200基・日	0.031	0.0003	-	1,558	42
	計	155	-	-	-	-	5,994	-

※地域値：当該市の類似猟法の値（銃猟、くくりわな H28モニタリング結果報告から抜粋）

### (1) 誘引狙撃（モバイルカリング）

標高の高い地域に積雪があり、シカが実施箇所に移動してきたため、餌付けの誘引効果が発揮され、通常の銃猟と比較し高い捕獲効率（約4倍）となった。また、捕獲効率は前年度とほぼ同等であった。

ただし、実施にあたっては以下の条件を満たす必要がある。

#### ①人の立ち入りを規制できる道路での実施

※警察署の許可（道路使用許可、荷台乗車許可）、道路管理者の了解等が必要

#### ②射撃技術の高い射手の確保

### (2) 誘引式くくりわな

獣道付近での餌付けの誘引効果が発揮され、通常のくくりわなと比較し高い捕獲効率（日光：約9倍、矢板：約100倍）となった。

しかし、日光市において前年度より捕獲効率が下がった理由は、実施時期に積雪が少なく、平成27年度よりも誘引効果が高まらなかったためと思われる。

## 4 今後の対応

これまでの実施結果について普及を図るとともに、誘引式くくりわなについては矢板市において引き続き事業を実施し、より効率的な捕獲方法となるよう改善を図る。

平成28年度栃木県指定管理鳥獣  
捕獲等事業  
実施区域位置図

福島県



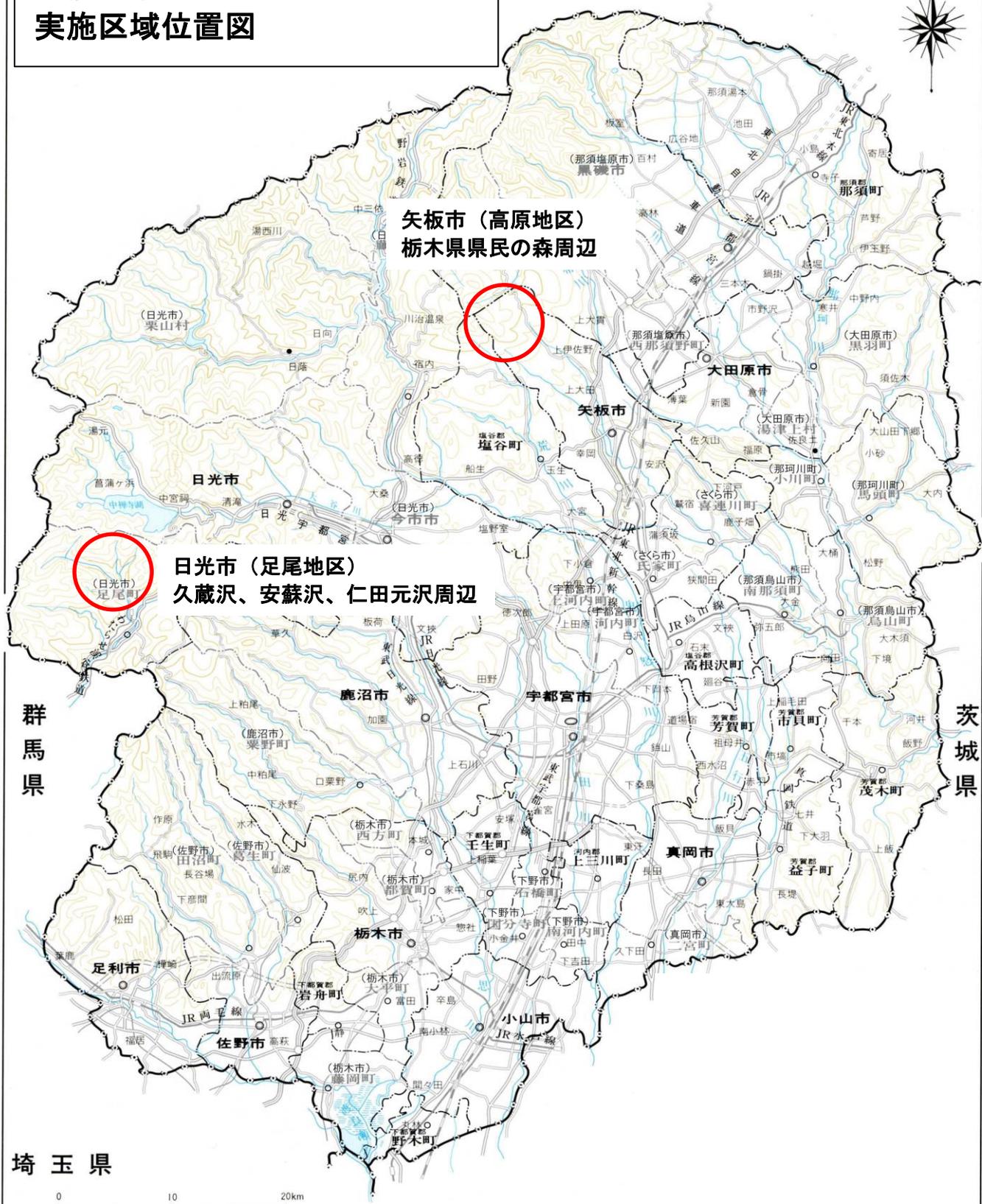
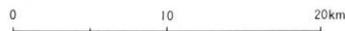
矢板市（高原地区）  
栃木県県民の森周辺

日光市（足尾地区）  
久蔵沢、安蘇沢、仁田元沢周辺

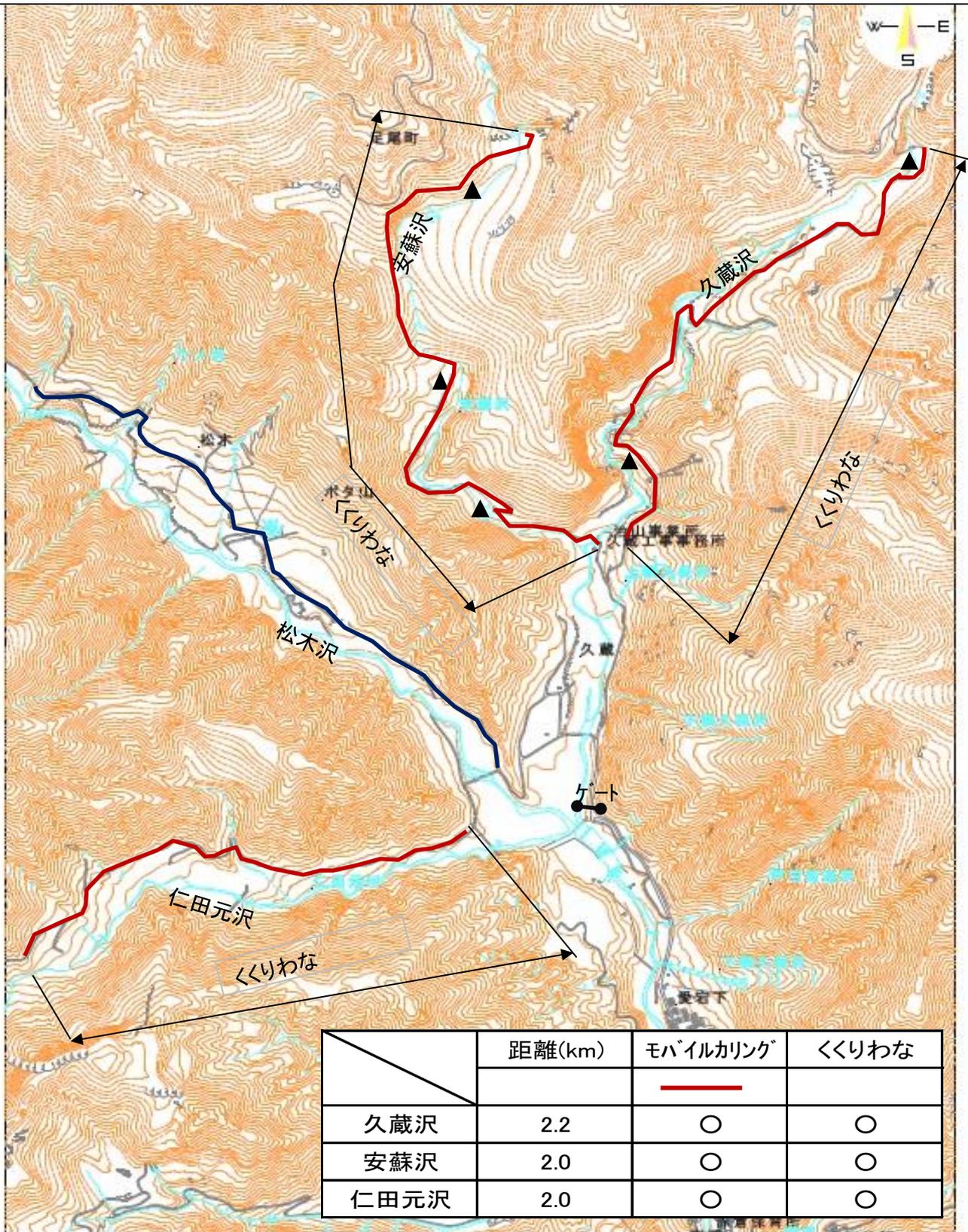
群馬県

茨城県

埼玉県



平成28年度 栃木県指定管理鳥獣捕獲等事業 実施区域図(足尾地区)



	距離(km)	モバイルリング*	くくりわな
		—	
久蔵沢	2.2	○	○
安蘇沢	2.0	○	○
仁田元沢	2.0	○	○

(注) 本資料は、所有権、所有界、面積等土地に関する権利及び立木竹の評価について証明するものではありません。 栃木県環境森林部

0 0.25 0.5 0.75 1 1.25km

1/20000

## H29 シカ対策概要表

機関名： 栃木県西環境森林事務所

1	取組名称	小田代原電気柵
	対策の種類	防除(自然植生被害)
	実施期間	H10～
	実施位置	別図
	成果・データ	自然植生の回復
2	取組名称	白根山シラネアオイ電気柵
	対策の種類	防除(自然植生被害)
	実施期間	H5～
	実施位置	別図
	成果・データ	シラネアオイの保護
3	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	
4	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	
5	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	

### ※備考

- ・昨年度のミーティング以降から今年度末までに実施される対策についてご記入ください。
- ・「対策の種類」は、捕獲、防除、調査、他の項目をご記入ください。
- ・補足説明資料(位置図や写真等を含む)は事前にご送付いただくか、当日ご持参ください。

## 小田代原植生復元施設の概要

### 栃木県西環境森林事務所

#### 1 小田代原について

- ・小田代原は戦場ヶ原の西に位置する面積は約65 haの湿原である。
- ・男体山、白根山の噴出物や周辺からの土砂の流入によって湖沼から湿原へと遷移してきた。現在も周辺からの土砂の流入がみられ、湿原から草原への遷移の過程にある。
- ・小田代原周辺の天然生カラマツ林は、国内に数カ所しかないもので学術参考保護林に指定されている。
- ・小田代原は場所によって草の色が違い、モザイク模様を呈している。これは、土壌環境が均一でなく、水分や養分の条件が場所により異なるため、それに適した植物が分布しているためである。
- ・小田代原の主な植物は、クガイソウ、アヤメ、ノハナショウブ、ノアザミ、ハクサンフウコ、ワレモコウ、ツリガネニンジンなどであり、かつては歩道の両側にたくさんみられたが、シカの食害により一時減少し、食害に強いススキ、ササが多くを占めたが、植生復元施設整備以降は植生が復元しつつある状況である。
- ・平成17年11月、湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原と共に、奥日光の湿原としてラムサール条約登録湿地となった。

#### 2 保全対策事業の概要

- ・平成9年度の「緑のダイヤモンド計画」事業により、植生復元施設（電気柵）、土砂流入防止施設及び防火施設の整備を行った。
- ・シカの食害から植物の保護を図るために、小田代原の周囲3,300mに電気柵及び金網柵を設置した。
- ・歩行利用者の感電事故がないように、注意看板を設置しているほか、安全確保のため、歩道と電気柵の交差部分5カ所に回転ドアを設けている。また展望台付近の利用者の多い区間（約300m）は金網柵を設置し、利用者の安全を図っている。

#### 平成9年度 小田代原保全施設工事

- ・植生復元施設 防護柵 3,300m  
事業費 60,000千円（国1/2、県1/2）

#### 3 電気柵の概要

- ・高さ2.0m 下部0.9mまでは金網式（植物による漏電・積雪対策）  
上部1.1mは電気ワイヤー 4段  
電源はソーラーバッテリー
- ・支柱には県産材のスギを使用して自然環境に配慮している。（延長2,500m）
- ・電気柵には、約7,700Vの電流が1.5秒間隔で流れている。（静電気程度）

※H29.11.21 現在、通電していない。

小田代電気柵 資料

図1 小田代電気柵（金網柵部分）



図2 小田代電気柵（電気柵部分）



シラネアオイ電気柵 位置図





写真2 日光白根山 五色山南西斜面電気柵①



写真3 日光白根山 五色山南西斜面電気柵②



写真4 シラネアオイ



## H29 シカ対策概要表

機関名： 栃木県林業センター

1	取組名称	季節移動個体の待ち受け狙撃試験
	対策の種類	捕獲
	実施期間	平成29年4月(5日間)
	実施位置	奥日光千手ヶ原
	成果・データ	17頭捕獲
2	取組名称	くくりわなによる捕獲試験
	対策の種類	捕獲
	実施期間	平成28年10月
	実施位置	奥日光千手ヶ原
	成果・データ	41頭捕獲
3	取組名称	くくりわなによる捕獲試験
	対策の種類	捕獲
	実施期間	平成29年3月～5月
	実施位置	奥日光千手ヶ原
	成果・データ	78頭捕獲
4	取組名称	くくりわなによる捕獲試験及び捕獲個体処理試験
	対策の種類	捕獲
	実施期間	平成29年7月
	実施位置	白根山
	成果・データ	4頭捕獲・地表放置の有効性確認
5	取組名称	
	対策の種類	
	実施期間	
	実施位置	
	成果・データ	

### ※備考

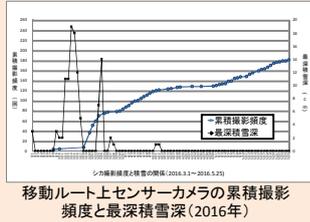
- ・昨年度のミーティング以降から今年度末までに実施される対策についてご記入ください。
- ・「対策の種類」は、捕獲、防除、調査、他の項目をご記入ください。
- ・補足説明資料(位置図や写真等を含む)は事前に送付いただくか、当日ご持参ください。

# 公募射手によるニホンジカ季節移動 個体の待ち受け狙撃

丸山哲也(栃木県林業センター)・小松大泰(日光市農林課)

## 背景

- ・季節移動個体の集中ルートの1つが存在
- ・融雪に伴い一気に移動することが判明 →



待ち受け狙撃ができないか？

## 位置図



実施箇所(テント側より射撃方向を望む)



越冬地の状況(撮影:須藤幸喜氏)

## 方法

### ブライントントからの待ち受け狙撃



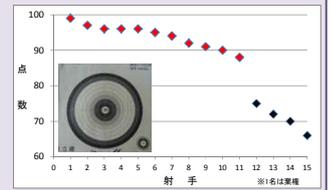
- ・7時半～12時、13時～18時の2交代、各1名の射手
- ・記録員が同行し、射撃の指示
- ・4頭以内の出没のみ射撃実施
- ・頭頸部の狙撃による即倒
- ・射程は50～80m程度
- ・事前餌付けなし
- ・2017年4月に5日間実施



## 射手の公募

### 募集条件等

- ・猟友会日光支部に所属
  - ・ライフル銃を所有
  - ・装弾は6mmもしくは7.62mm(308や30-06等、マグナム弾は不可)
  - ・射撃検定への出席
- 100mで10発発射 80点以上の上位より10名以内を選び、79点以下は失格
- ・支部からの推薦ではなく個人からの応募を重視



16名中11名※を選定

※1名辞退のため

## 結果



実施日	総出沒数	発砲対象数※	発砲数	捕獲数	逃走数	所要時間(分)	捕獲効率(頭/時)
4/5	2	2	2	1	1	505	0.12
4/8	28	12	7	2	10	530	0.57
4/10	117	17	10	7	10	550	0.76
4/12	4	4	2	1	3	515	0.12
4/15	23	12	9	6	6	565	0.64
計	174	47	30	17	30	2,665	0.38

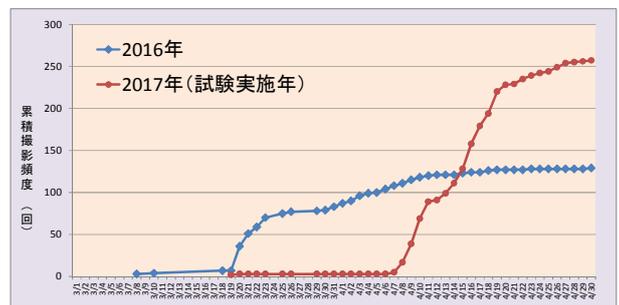
※総出沒数のうち、発砲を行った対象の数



出沒頻度は高いが日によって差あり →融雪や強風の影響  
高い捕獲効率 →0.38頭/時 (3.40頭/日)  
午後に発砲機会が多い傾向 (午後のみは6.00頭/日)

## 考察

- 捕獲効率は高い
- 準備は省力的  
→射手は1人、餌づけなし、安全管理の範囲が狭い
- 実施日は雪の状況次第 →フレキシブルな対応必要
- 大集団には対応不可 →わな等別の手法を検討
- 公募制により射手の技術向上へ



# 誘引を伴うくりわなによるニホンジカ捕獲の試み（応用編）

## 凍結対策を施した誘引式くりわなで積雪期のシカを捕る

### 背景

○誘引式くりわなは、捕獲効率の向上と錯誤捕獲の軽減できる手法として実用化が各地域で進んでいる。  
 しかしながら  
 ○誘引効果が最も期待できる雪が残る春先は、わなの凍結による誤作動（空ハジキ）や不作為が発生し、捕獲効率が低下する恐れがある。  
 そこで  
 ○わなの凍結対策を施した誘引式くりわなの有効性を実証するため残雪期の奥日光で捕獲試験を行った。



### 方法



実施場所と時期  
 ◆奥日光の湯川西側に位置する市道1002号線及び千手ヶ原周辺  
 ・前期  
 H29年3月28日～4月4日  
 ・中期  
 4月16日～4月26日  
 ・後期  
 5月7日～5月14日



中期においては、モバイルカリング(4月6日～14日)の餌場を引き継いで有効利用



- ・凍結した土壌との緩衝材となる**専用のわなケース**を使用
- ・わなの作動部の凍結を防ぐため、わなを市販の**シャワーキャップ**で被覆
- ・ワイヤーバネの凍結を防ぐため、周りを**落ち葉**で覆うとともに、**縦に割った竹**を被せた。

### 結果と考察

年	期間	稼働日数	捕獲努力量	捕獲数	捕獲効率	空ハジキ数	空ハジキなし捕獲成功率
2017 (平成29年)	前期 (3～4月)	7	47	9	0.191	0	1.000
	中期 (4月)	10	207	48	0.232	8	0.857
	後期 (5月)	7	142	21	0.148	4	0.840
	計	24	396	78	0.197	12	0.867

参考	期間	稼働日数	捕獲努力量	捕獲数	捕獲効率	空ハジキ数	空ハジキなし捕獲成功率
2016 (平成28年)	5月	15	269	22	0.082	7	0.759
	10月	28	534	41	0.077	13	0.759
	計	91	803	63	0.078	20	0.759

※空ハジキなし捕獲成功率  
 = 捕獲数 / (捕獲数 + 空ハジキ数)

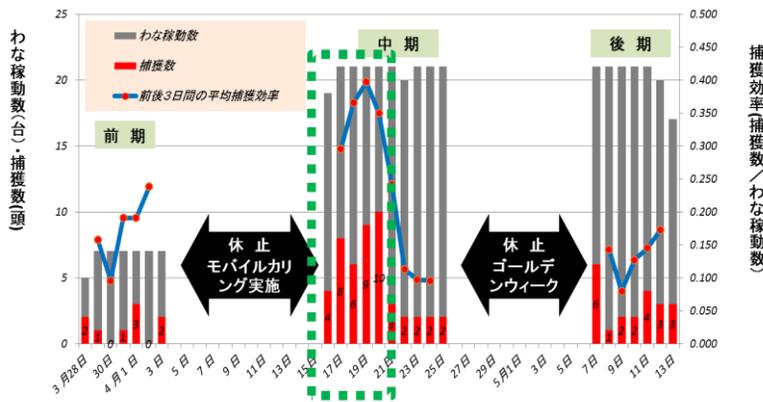


図 わな稼働数と捕獲数及び捕獲効率の経過

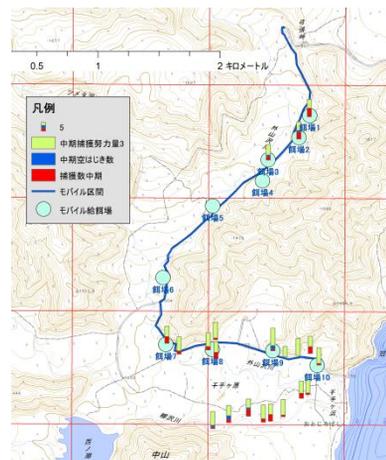


図 中期(モバイルカリング直後)の捕獲状況

- ◆ 全期間の捕獲効率は**0.197(78頭/396TN)**で、くりわなによるシカの捕獲としては極めて高い値→**5基中1基で毎日1頭捕獲できる効率**
- ◆ 空ハジキ無しの捕獲成功率[捕獲数/(捕獲数+空ハジキ数)]は**0.867[(78/(78+12))]**で非積雪期の平成28年5月と10月の結果**0.759[63/(63+20)]**と比べて同等以上
- ◆ 期間毎の捕獲効率は、**前期0.191(9頭/47TN)**、**中期0.232(48頭/207TN)**、**後期0.148(21頭/142TN)**で、当該地域の雪が消失し、草本類が芽生え始めた5月(後期)は低い傾向

- ◆ 中期における前半の5日間の捕獲効率は著しく高い**0.3～0.4**で、夜間のシカの見撃情報も多かったことから、この時期が当該地域を通過するシカの季節移動のピークであったと考えられた

### まとめ

- ◆ 凍結対策を施した誘引式くりわなにより、これまで実施が困難であった残雪期のシカの捕獲が、高い捕獲効率で可能となった。

# 現場放置によるシカ捕獲個体の処理

丸山哲也(栃木県林業センター)・稲垣亜希乃(東京農工大学)

## 背景

- ・高山地域でシカ捕獲個体を埋設処理(埋設作業0.5~1.5h/頭)
- ・ほとんどがクマにより掘削 →
- ・現地の植生・土壌攪乱大(国立公園特別保護地区)

クマによる掘り起こし発生状況

埋設年	埋設穴数	掘り起こし発生穴数	掘り起こし発生率
2014(H26)	1	0	0.0
2015(H27)	3	2	66.7
2016(H28)	9	9	100.0
2017(H29)	1	1	100.0
計	14	12	85.7



## 位置図



地表放置と埋設処理の比較を実施

## 方法

### 地表放置

- ・頭部、四肢、胴体2つ、内臓の8パーツに分割(食べやすさを考慮)
- ・3m四方程度の範囲に配置



※研究目的でシカ個体を地表に設置しカメラで監視する行為は、鳥獣保護管理法の鳥獣の放置等や廃棄物処理法の廃棄物放置には該当しない旨、環境省に確認済み

### 埋設

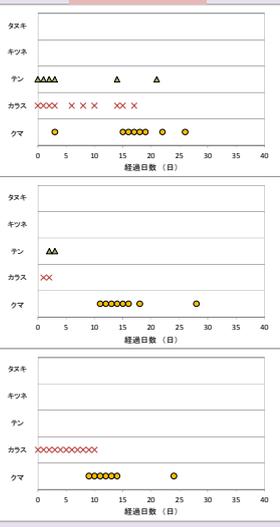
- ・幼獣はそのまま、成獣は四肢を分割(穴を小さくするため)
- ・60~70cm程度の穴を人力掘削し、埋設



## 結果

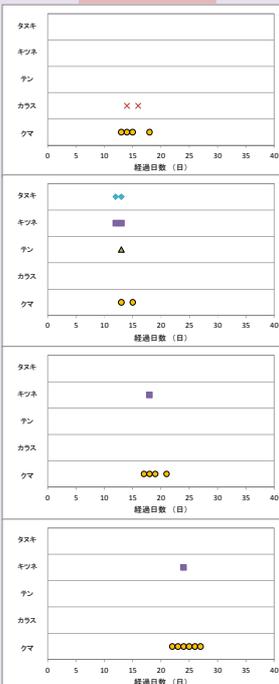
処理個体別のクマ、カラス、テン、キツネ、タヌキの採食状況

### 地表放置



※処理後1日単位で、1回でも採食が確認された日を図示。探索行動のみは含まない。

### 埋設



処理別のクマ、カラスの採食頻度と滞在時間

処理	採食頻度※1(回/日)		採食滞在時間※2(分)	
	クマ	カラス	クマ	カラス
地表平均	1.7	7.6	12	6
埋設平均	3.8	—	9	—

P<0.01 U検定

※1:採食があった日だけの平均

※2:採食1回ごとの滞在時間で、埋設の場合は掘削時間も含む

- 埋設の方が滞在頻度が多い
- 滞在時間に差はない
- ▶埋設は1回あたりの採食量が少ない = 食べにくい?

地表放置箇所の約2ヶ月後の状況



※いずれも「方法」で示した写真と同一箇所

- 地表の攪乱は極めて少ない

## 地表放置の利点

- 多様な動物の採食
- クマの滞在頻度の減少
- 地表攪乱の最小限化
- 掘削労力の削減

有効な処理方法のひとつとなり得る

- 地表放置はカラスの採食が多い
- テンの採食や持ち去りも観察
- クマ採食集中期間は両者とも1週間程度

栃木県が実施した日光地区でのシカ捕獲（平成 25 年度以降）

